

学園通信

2022.3
Vol.09



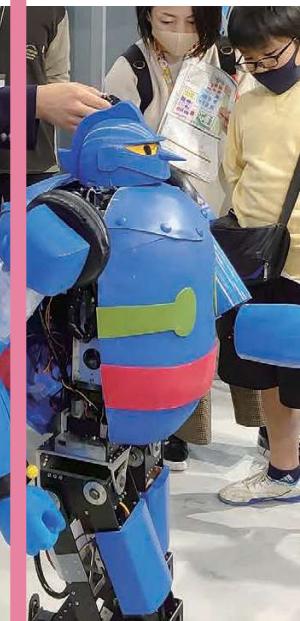
学校法人 名古屋電気学園

愛知工業大学

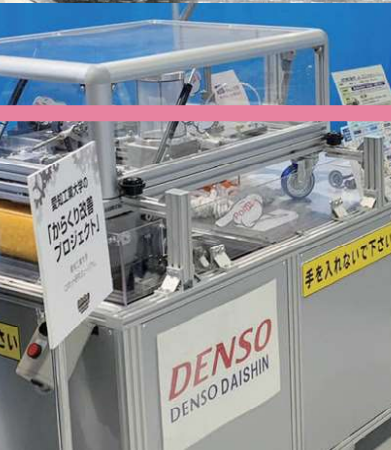
愛知工業大学名電高等学校

愛知工業大学名電中学校

愛知工業大学情報電子専門学校



©光プロ



|| 巻頭特集 || P01

「ロボカップアジア
パシフィック2021あいち」
レスキューシミュレーション
リーグで優勝

|| 巻頭特集 || P03

学園の選手が
世界を舞台に活躍

「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」レスキューシミュレーションリーグで優勝

愛知県国際展示場で2021年11月25〜28日に開催された

「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」で、

レスキューシミュレーションリーグに出場した

愛工大チームが見事優勝を果たしました。

また、多彩な体験教室も同時に開催され、大学の教員らが幅広く協力しました。

「ロボカップアジアパシフィック」とは

ロボカップは1997年から毎年世界各地で開催されている自律型ロボットの国際的な競技大会です。そのロボカップの競技参加者の裾野を広げることが目的に、アジア・太平洋地域の学生が競う大会として2017年に「ロボカップアジアパシフィック」が発足しました。愛知県で開催された2021年大会には20以上の地域から300チームが参加（海外チームはリモート参加）しました。

コンピュータ内に作られた被災地で救助能力を競う

ロボカップの種目の一つであるレスキューシミュレーションリーグは、コンピュータ内に作られた市街地が舞台。大規模災害が発生したことを想定し、AI（人工知能）を持つ「エージェント」と呼ばれる救助隊・消防隊・道路警戒隊などが連携して被災者を探し、救助する能力を競います。

愛工大チームの出場メンバーは、情報科学科の分散人工知能研究室（伊藤暢浩教授）に所属する大学院2年の岡戸優樹さんと酒井淑成さんと長谷川滉さん、学部4年の鈴木宏哉さんと坂元優介さんと森永彩葉さん、同3年の上原温揮さんと、同2年の岡本愛さん、同1年の角野美月さんと島田優希さんの院生・学生たちと、伊藤教授、愛知大学経営学部の岩田員典教授の合わせて12人です。

大会は国内外4チームの争いとなり、愛工大チームは無駄のない動きで次々に人命を救助。見事に優勝を勝ち取りました。



優勝を勝ち取った愛工大チーム

大学院経営情報科学研究科博士前期課程2年 岡戸 優樹さん

今回得た経験を 社会でも生かしたい

大会への準備を通じて、チームで役割分担をして開発を進めることの大変さや楽しさを知ることができました。社会に出たとき、参加するプロジェクトが円滑に進むよう、今回の経験を生かしたいと思います。

実機による競技では 3位を獲得

同大会には実機によるレスキューロボットリーグもあります。愛工大からは機械学科の知能機械システム工学研究室（奥川雅之教授）のAIT Pickersが参加。3位の成績を収めました。

VOICE



体験教室やワークショップなど、幅広く協力

同大会では競技の他、多彩な体験教室なども練り広げられ、多くの入場者でにぎわいました。愛工大からも教員らが運営に参加し、ロボット研究ミュージアムによるロボット展示エリア監修をはじめ、ワークショップなどに幅広く協力しました。その一部を紹介します。



ロボットアームのCOBOTTAや配膳ロボが活躍したスマートカフェ



©光プロ

入場者の関心を集めたAIT鉄人プロジェクト



見学者の注目を集めた「水中ロボット」ゾーン



CGメディア研究室による体験会「未来のロボットを描こう」



ロボット研究ミュージアムが監修したロボット歴史エリア



西山禎泰ロボット研究ミュージアム客員講師の話聞くツアー参加の子どもたち



多くの子どもが体験した「アソブロック」ゾーン



からくりを用いた無人搬送機の展示



感染症対策に活躍するAITステリロボットも展示



和菓子の制作工程



ポップコーン盛り付け工程



クレーププロジェクト

サイドイベントエリアのテーマゾーン「スマートライフ・カフェブース」では、「COBOTTAクレーププロジェクト」「COBOTTA五平餅焼き工程・ポップコーン盛り付け工程プロジェクト」「和菓子+デンタルプロジェクト」の3つのプロジェクトがシステム開発を行い、参加しました。会場ではクレープづくり、五平餅を焼くなどのデモンストレーションを披露し、サーブロボットで提供しました。

世界ユース卓球・混合ダブルスで 篠塚が優勝飾る

ポルトガルのヴィラ・ノヴァ・デ・ガイアで12月2～8日に開催された2021年世界ユース卓球選手権大会で、エリートアカデミーの木原美悠選手と組んでU19混合ダブルスに出場した高校卓球部の篠塚大登（3年）が、堂々の優勝を飾りました。大会では、同部の篠塚と濱田一輝（3年）、中学卓球部の吉山和希（2年）がメンバーに加わったU19男子団体の日本チームも3位の成績を収めました。

U19混合ダブルスには、世界28の国と地域から31チームが出場しました。日本から唯一出場した篠塚／木原ペアは、1回戦から準決勝までの4試合をいずれも1セットも落とすことなく勝ち上がり、決勝で、本大会U19男女シングルス優勝者同士のペアである中国の向鵬選手／蒯曼選手と対戦しました。先行されながらも粘り強く戦い、最終ゲームを11-7で制して3-2で逆転勝利を収めました。

世界ユースランキング上位者しか出場できない世界ユース卓球選手権大会は、これまで行われていた世界ジュニア卓球選手権大会に代わるもので、今大会が第1回大会となります。篠塚は12月28日、後藤泰之理事長、荻原哲哉校長、今枝一郎卓球部監督とともに大村秀章愛知県知事を表敬訪問し、「決勝戦はリードされ苦しい状況でしたが、内容は負けておらず勝てる自信がありました」と優勝を報告。大村知事から「バリ五輪を目指して頑張っていたください」と激励を受けました。



大村秀章愛知県知事の激励を受けた篠塚大登ら



初めてペアを組んだ木原美悠選手と混合ダブルス優勝を飾った篠塚大登（写真はWTT提供）

学園の選手が 世界を舞台に活躍



■2021年12月開幕の今季W杯での戦績

大会	種目	順位
2021年12月	ルカ（フィンランド）大会	MO 6位
2021年12月	イドレ（スウェーデン）大会	MO 5位、DM 2位
2021年12月	アルプデュエズ（フランス）大会	MO 31位、DM 16位
2022年1月	トランブラン（カナダ）大会	MO 7位、MO 12位
2022年1月	ディアバレー（アメリカ）大会	MO 14位、MO 8位

※北京オリンピック選考基準

全日本スキー連盟が定めるオリンピック派遣基準を複数満たしていた場合は、昨シーズンからの世界大会ポイント合計上位4人を選考することになっています。

柳本理乃、W杯で初の表彰台も 北京オリンピック出場は叶わず

フリースタイルスキーモーグルに取り組む大学競技スキー部の柳本理乃（3年）が、今季ワールドカップ（W杯）のイドレ（スウェーデン）大会で2位となり、自身初のW杯表彰台に乗りました。2022年1月現在、W杯世界ランキング7位（日本人3位）と好位置につけていますが、全日本スキー連盟のオリンピック派遣基準をクリアしていた5人で争った北京オリンピックの日本人枠「4」には、わずかな差で届きませんでした。

2019シーズンにW杯秋田大会で5位入賞し、全日本ナショナルチームでの活動を続けていましたが、その後の国際大会がコロナの影響で激減し、オリンピック派遣基準をクリアできないままシーズンインとなりました。2021年11月のW杯出場選考レース（スウェーデン）で2連勝、W杯出場権を手中にし、北京オリンピック出場を目指してスタートしました。

W杯初戦となるルカ（フィンランド）大会でいきなり6位入賞し、オリンピック派遣基準をクリア。続くイドレ大会で5位、2位と好調を維持していましたが、アルプデュエズ（フランス）大会中に大転倒、脳震盪で搬送され、約2週間、滑れない日が続きました。一時はW杯参戦継続も危ぶまれましたが、気力を振り絞り北米戦にフル参戦し、入賞を重ねました。

今後は、2026年冬季オリンピックを目標に、気持ちを新たに3月のW杯や全日本選手権に出場予定です。



学園だより

Campus LETTER

創立109周年
記念式典

名古屋電気学園の創立109周年記念式典は11月9日、学園の淳和記念館（名古屋千種区若水3）3階記念ホールで、感染症防止対策として出席者を限定して開催されました。
後藤泰之理事長は式辞で、学園が関わった歴史的な出来事

として1971年に名古屋で開催された世界卓球選手権大会を挙げ、「文化大革命を機に国際舞台から退いていた中国選手団を、当時の本学学長であった後藤鉦二先生が中心となって万難を排して招聘し、その後の世界情勢を大きく変えていくきっかけになりました。50年前、多くの困難を学園全体の力で乗り越えたように、今後も学園は大きく前進していくものと信じています」と述べました。

45年、35年、25年、15年の永年勤続者を表彰し、受賞者を代表して大学地域連携本部事務室の宇田秀樹事務長（勤続45年）が、歩んだ道を振り返りながら、「これまでの経験の中で思ったことは、継続は力ということですね。私たちの願いは、名古屋電気学園が、愛知工業大学が、これまで以上に発展していくことです」と謝辞を述べました。

永年勤続表彰の皆さん

勤続45年 3人

- 宇田秀樹 大学地域連携本部事務室事務長
- 林 葉子 大学基礎教育センター事務室事務長
- 小島雅子 大学工学研究科・工学部事務室参事

勤続35年 6人

- 柳井裕道 大学基礎教育センター教授
- 中村栄一 高校教頭
- 岩井貞二 監査室室長
- 河島勝利 法人事務局購買課事務職員
- 松井俊浩 大学経営情報科学研究科・情報科学部事務室参事
- 増田 朗 若水事務部主査

勤続25年 9人

- 高木 誠 大学機械学科教授
- 石井雅剛 高校教諭
- 岩田崇志 高校教諭
- 大石敬治 高校教諭
- 中原早苗 高校教諭
- 田中正史 専門学校教授
- 中條伸子 法人事務局広報課課長
- 川口 亨 大学学生サービスグループ係長
- 仲尾次亜紀 大学経営情報科学研究科・情報科学部事務室事務主任

勤続15年 14人

- 中井孝幸 大学建築学科教授
- 伊藤暢浩 大学情報科学科教授
- 張 新力 大学基礎教育センター教授
- 中山雄行 大学機械学科准教授
- 中西 泉 高校教諭
- 中山智明 高校教諭
- 石田 健 中学教諭
- 河内章浩 中学教諭
- 柴田一生 中学教諭
- 松本 靖 中学教諭
- 大茂 真 大学キャリアセンター事務長
- 馬詰恵伍 大学入試広報課係長
- 小西貴之 大学事務局総合企画課係長
- 奥野真弓 大学学生サービスグループ事務主任



永年勤続表彰の皆さん

しめやかに 物故者法要

創立記念式典に続き、会場を覚王山日泰寺に移して学園の物故者法要がしめやかに営まれました。この1年間に亡くなられた方々を含む物故者のご遺族、祭主の後藤泰之理事長をはじめ学園関係者が参列しました。読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香の列が続き、物故者の冥福を祈りました。この後、近くの学園墓地でもお参りが行われました。



故人の冥福をお祈りした物故者法要

令和4年仕事始め 後藤泰之理事長が 年頭の挨拶

令和4年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長は1月6日に若水キャンパス(中学・高校)、1月7日に八草キャンパス

スで年頭の挨拶をしました。コ

ロナ禍の中での教職員の対応にあらためて感謝を述べたうえで、学園創立110周年にあたり「飛躍の年」とする考えを明らかにしました。若水キャンパスでは、学園全体としての一貫教育をより一層推進する方針や、キャンパスの環境整備などについて述べました。八草キャンパスでは、愛工大らしさの確立を念頭に、地域との連携協働をさらに推進するほか、情報科学部の拠点となる新4号館の建設(令和5年夏完工予定)などについて考えを述べ、「教育機関として社会的使命を全力で果たしていきたい」と結末を呼び掛けました。開校30周年を迎える専門学校でも、1月7日に飯吉僚校長が新たな10年のスタートに向け年頭の挨拶をしました。



年頭の挨拶をする後藤泰之理事長(八草キャンパス)

中高前校長の岩間博氏 に後藤鉀二賞を授与

後藤鉀二先生奨学記念会(会



岩間氏(前列右から3人目)を囲み記念撮影する皆さん

長・後藤泰之理事長は、本年度の後藤鉀二賞を、愛知工業大学名電中学校・高等学校の前校長、岩間博氏に授与しました。学園の発展に対する顕著な功績者に贈られる後藤鉀二賞は昭和49年度に始まり、岩間氏は92人目の受賞者となります。

岩間氏は、平成28年4月から令和3年3月まで高校・中学の校長を務め、学校の魅力と活力の向上に資するさまざまな学校改革に取り組みました。平成29年2月の中学校入試で、運動や文化・芸術、取得資格などの実績も評価対象とする「奨学生B入試」を導入、志願者増を果たしたほか、平成30年4月の愛知工業大学附属中学校から愛知工業大学名電中学校への校名変更で「愛工大名電

の名の下に」をスローガンに掲げ、スムーズな校名変更尽力しました。平成30年度入試から取り入れているインターネッ

ト出願システムにあたっては、県内私立高校の取りまとめ役となり、県内公立中学校への丁寧な説明と対応により信頼関係を損なうことなく導入を行いました。平成31年2月には「学校における運動部活動ならびに文化部活動の方針」を策定。また、政府の働き方改革の方針に基づいて就業規則の見直しを行い、勤務のあり方に関する対応を進めました。平成31年4月には、本校独自の探究的学習「Mean Quest」をスタートさせ、生徒の思考力、判断力、表現力及び主体的な学習態度の育成に取り組みました。令和2年4月には、生徒一人一台タブレットを導入し、ICTリテラシーの育成とタブレットを活用した授業改革を押し進めました。令和2年11月に設置された名電中高改革委員会で、中心メンバーとして、中高の経営安定化に向けた方針骨子の策定に尽力しました。

授与式は1月20日、若水キャンパスの会議室で行われました。出席者全員で後藤鉀二先生のご遺影に黙とうを捧げた後、後藤泰之理事長から賞状

と賞牌などの記念品が贈られま

した。後藤理事長は、副校長の任期を含め6年間の岩間氏の功績を振り返り「強いリーダーシップを発揮して中学高校、学園の発展に寄与された。先生が築き上げた土台をますます発展させてまいります」とお祝いの言葉をかけました。岩間氏は、コロナ禍の広がりで予定変更を強いられた令和元年度の卒業式などに触れ「先生方の持ち味を生かしながら一体感を持って生徒と向き合った。学校として方向性を共有でき、引き継いだことで賞をいただけたと感じています」と謝辞を述べました。

後藤鉀二賞は、学園の元理事長で愛知工業大学の初代学長を務めた後藤鉀二先生の功績を記念し、「建学精神」の昂揚と人材育成に資する目的で設けられています。「教育」「科学技術の振興」「スポーツ」「学園の発展」に寄与した業績顕著な教職員の中から、推薦を得て記念会が受賞者を選定する栄誉ある表彰です。受賞者には昭和49年度に卓球の世界チャンピオンになった故長谷川信彦さんや、プロ野球界のイチロー選手(オリックス時代)、山崎武司さん、工藤公康・福岡ソフトバンクホークス前監督、卓球の吉村真晴選手らスポーツ選手もいます。



後藤すゞ子先生 奨学金を交付

学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が、10月21日に情報科学部の学生へ、1月11日に工学部の学生へ、それぞれ交付されました。

奨学金は、元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。八草キャンパス本部棟で交付があり、後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して「しっかり勉強を続けてほしい」と学生を激励しました。



1月11日の交付

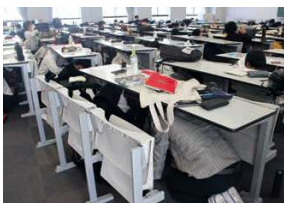
10月21日の交付

震災の備え万全に 学園の防災訓練

学園の防災訓練は11月10日、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、今年も密を避ける形で実施されました。

八草キャンパスでは、集合を伴う全学的な避難訓練は行わず、シェイクアウト訓練を実施しました。午前11時15分、緊急地震速報のサイレンと「地震が来ます」のアナウンスが流れ、授業中の学生らが、机の下に隠れるなどの退避行動をとりました。また、本部棟の会議室などでは学園と大学の防災担当者による図上訓練が行われ、11時35分地震発生、11時40分危機対策本部設置との想定で、無線連絡を通じて各自の行動を確認しながら万全を期しました。

学生たちのシェイクアウト訓練



図上訓練

ロボカップジュニア 東海ブロック大会

ロボカップジュニア2021東海ブロック大会レスキューリーグが12月11日、学園の淳和記念館(名古屋市中千種区若水3)オーブンラボで開かれ、出場した小中高生たちが自律型ロボットのプログラム技術を競いました。

車型の自律走行ロボットを指定のライン上で走らせながら坂路などの障害を走破し、要救助者に見立てたボールを安全エリアに運ぶルール。ワールドリーグレスキューライン(世界大会への選抜を目的とするリーグ)と日本リーグレスキュー(普及を



自律走行ロボットの性能を競う参加者

ワールドリーグレスキューライン (世界大会への選抜を目的とするリーグ)

- ①めいでんアンパンマングミ食べたいな
(名電高校2年・水野拓真、富岡千遥、唐澤優宇、村田快斗)
- ②meiden進行停止
(名電高校2年・山本紘夢、嶋田翔、霧見稜空)
- ③飛翔sky

日本リーグレスキュー (普及を目的とするリーグ)

- ①Nova
(名電中学2年・奥本隆聖、田中脩人)
- ②RMD
- ③はたらくトミカ
(名電中学2年・吉田昊由、細井凱斗)

目的とするリーグ)に合わせて41チームが参加し、それぞれ2回ずつの競技の合計で得点などを競いました。大会の運営には、大学の学生や教員たちが協力しました。

名電高校と名電中学のチームも優勝など優秀な成績を収めました。成績上位者は、3月25〜27日に名古屋国際展示場(ポートメッセなごや)で開かれるロボカップジュニア・ジャパンオープン2022名古屋に出場します。

各リーグの1〜3位は次の通りです。

設置校入試

今季の入試は、大学が前期日程A方式1月27・28日、同M方式(マークセンス式)29日の3日連続で、感染症対策に万全を期して行われました。3学部7学科14専攻の募集人員1315人に対し、志願者は6241人でした。八草・自由ヶ丘両キャンパスをはじめ豊橋、一宮、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の各地方会場で平穩に日程を終了しました。中学は1月22日奨学生A・B入試、23日第1回一般入試、2月11日第2回一般入試、高校は1月26日推薦入試・帰国生特別入試・トップアスリート入試、2月3日一般入試の日程で行われました。



問題配布を受ける大学の受験生

第4回工大サミット

本学を含む理工系8大学(愛知工業大学、大阪工業大学、神奈川工科大学、芝浦工業大学、東北工業大学、広島工業大学、福井工業大学、福岡工



パネルディスカッション第1部「Society 5.0 for SDGs」



浅野さんの学生プレゼンテーション

次年度開催大学としてあいさつする後藤学長

業大学)による「第4回工大サミット」(後援:文部科学省)が11月27日、広島市の広島工業大学で開催されました。

昨年度、コロナ禍に伴って延期した工大サミットを、今年度は感染防止対策を施してオンラインとオフラインで開催し、約400人が参加しました。

今回のサミットは、デジタル革新とサステナビリティが融合した「Society 5.0 for SDGs」に向け、その実現につながるイノベーション活動とその加速について議論・共有するとともに、社会に発信する場を目指しました。

初めに文部科学省高等教育局専門教育課の奥井雅博課長補佐が挨拶し、その後、8工大の学長によるパネルディスカッション(第1部「Society 5.0 for SDGs」、第2部「ポストコロナの教育」が行われました。後藤泰之学長は、第1部で、包括協定を結ぶ地元自治体との研究連携など、SDGsの精神に基づく社会貢献活動・産官学連携活動や、教育面・研究面での本学のSDGsの推

進状況について説明しました。

また、学生プレゼンテーションとして、建築学科4年の浅野陽向さんが、強靱なインフラをつくる「デジタルツイン・コンクリート工事管理システム」を紹介しました。第2部で、後藤学長は遠隔授業の改善例などを挙げながら「面接授業に近いほど学生の評価が高い。遠隔授業でのコンテンツは、予習、復習にも効果があるため、ポストコロナにおいても、ハイブリッドによる教育効果が期待できる。」などと述べました。

工大サミットは、工業立国を支える人材育成に対する工科系大学としての使命と、ボーダレス化の進展する世の中で、イノベーションを創出し、グローバルな環境で活躍できる人材育成を共通課題とし、各大学の人的・物的資源の情報共有と、相互の連携・協力による理工系高等教育のさらなる活性化を目指して、2017年に始まりました。次年度の「第5回工大サミット」は、本学での開催を予定しています。



学内イベントや研究室の様子など愛知工業大学の様々な情報を発信しています。



愛知工業大学の公式チャンネルもご覧ください。

University NEWS

A-I-Tサイエンス大賞 44テーマの成果発表

第20回の節目を迎えたA-I-Tサイエンス大賞の発表・審査が12月18日、八章キャンパスで行われました。科学技術立国を支える若者の育成を目的とする研究発表会で、愛知、岐阜、三重、静岡、長野各県の高校生から論文・作品を募集。「自然科学」「ものづくり」「社会科学・地



ステージ発表のプレゼンテーション



パネル展示発表で質問に答える高校生

域づくり」の3部門で計44テーマの発表がありました。部門別にステージ発表があり、チームを組んだ生徒たちが各テーマ5分間の持ち時間でプレゼンテーションを行いました。続いて1号館と10号館でパネル展示発表し、さらに詳しく説明しました。パネル展示の会場では参加者が質問し合い、交流と理解を深めました。

内田臣一教授(自然科学部門)、津田紀生教授(ものづくり部門)、後藤時政教授(社会科学部門)、後藤時政教授(社会科学部門)が委員となって発表の独創性や工夫、コミュニケーション力などを審査しました。審査結果は次の通りです。

最優秀賞

- 【自然科学部門】愛知県立刈谷高校「シャトルコックの軌道と素材による違い」
- 【ものづくり部門】愛知県立時習館高校「時習館のユリノキ染め」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立岡崎高校「北山湿地のヒメカンアオイは春咲きか? 秋咲きか?」

優秀賞

- 【自然科学部門】岐阜県立岐阜高校「環境DNA定量解析を用いたアユ仔魚降下量の推定～長良川におけるアユ仔魚の動態を探る～」
- 【ものづくり部門】愛知県立岡崎高校「自動ソレノイドコイル作製機の開発～リニアモーターカー開発へ向けて～」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立一宮高校A「プラネタリウム公開継続に向けて」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立一宮高校B「イタセンバラ保護啓発活動」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立羽島高校「スクミリンゴガイの駆除について?」
- 【ものづくり部門】愛知県立岡崎高校「自動ソレノイドコイル作製機の開発～リニアモーターカー開発へ向けて～」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立岡崎高校「ラスベリーパイと一眼レフカメラを用いた遠隔撮影システムの開発」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立春日井工科大学「AI搭載小型救急車の開発」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立一宮高校「プラネタリウム公開継続に向けて」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立一宮高校B「イタセンバラ保護啓発活動」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立羽島高校「スクミリンゴガイの駆除について?」
- 【ものづくり部門】愛知県立岡崎高校「自動ソレノイドコイル作製機の開発～リニアモーターカー開発へ向けて～」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立岡崎高校「ラスベリーパイと一眼レフカメラを用いた遠隔撮影システムの開発」
- 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立春日井工科大学「AI搭載小型救急車の開発」



大村秀章愛知県知事に優勝報告した本学チーム

ロボカップアジアパシフィック パシフィックで 知事に優勝報告

ロボカップアジアパシフィック2021あいちのレスキューシミュレーションリーグで優勝を飾った本学チームが12月23日、大村秀章愛知県知事に優勝報告しました。

この日は、優秀な成績を収めた県内他チームとともに報告に訪れました。本学チームを代表して大学院2年の長谷川滉さんが、ロボット同士の通信やがれき撤去の優先順を改善したなどを説明し、「来年度以降も優勝を目指して活動を続けていきたい」と誓いました。大村知事から「今回の経験を活かし、人生の目標に向かってさらに前進を」と、祝福と激励の言葉を受けました。

マスク寄贈

愛名会会員である工作機械メーカーの株式会社アステクス(静岡市・有我敦司代表取締役)から12月17日、本学に感染症予防のためのマスクの寄贈がありました。豊明市などに工場がある同社はマスクを製造できることから、地域の役に立ちたいとマスク2000枚を届けてくださいました。

プロジェクト 共同研究シンポジウム

第14回愛知工業大学プロジェクト共同研究シンポジウムが11月29日、12月1、3日の3日間にわたり、オンライン配信により実施されました。コロナ禍で昨年度の実施を中止したことからの、2年分の成果報告となりました。

産学連携研究推進事業の一環として企業と共同で研究に取り組むプロジェクト共同研究は、本学独自のマッチングファンドで、公募のうえ採択した研究を総合技術研究所が支援します。企業から提供された研

究経費と同額、または全額を本学が助成し、毎年のシンポジウムで成果を報告しています。本年度は以下の24件について、本学研究代表者から成果報告がありました。

- ◆ 河辺義信情報科学科教授
「時系列トラスの検証法に関する研究」
- ◆ 水野慎士情報科学科教授
「センサとインタラクティブ技術を活用した歩行リハビリ支援システムの開発」
- ◆ デジタル映像を用いた新しい生け花表現の創造に関する研究
- ◆ 横田崇土木工学科教授
「地震動到着時の緊急対応と発災後の応急対応を支援する総合地震防災システムの構築」
- ◆ 瀬古繁喜建築学学科教授
「合成床板のコンクリートの充填、空隙および滯水検知装置に関する研究」
- ◆ コンクリート躯体の施工の信頼性向上技術の研究
- ◆ 糸井弘行応用化学科准教授
「キノ系化合物と多孔質炭素との複合化とその電気化学キャパシタ特性評価」
- ◆ 金属ナノ粒子と担体のナノレベルでの複合化により発現する物性の評価とTEM観察による構造評価
- ◆ 清家善之電気学学科教授
「半導体デバイス洗浄における機械学習を用いた静電気障害の予知技術の確立」
- ◆ 超音波洗浄技術を用いた次世代半導体デバイスの洗浄技術に関する研究

◆ 山本義幸土木工学科准教授
「人工知能によるアスファルト舗装面のひび割れ判別の実用化」

◆ 雪田和人電気学学科教授
「交流/直流給電・配電における保護装置の開発」

◆ 塚田敏彦情報科学科教授
「生産工程で使える非接触データ入力手法の検討」
「樹脂透明部分の外観検査手法の検討」

◆ 菱田隆彰情報科学科教授
「スマートワークを実現するためのデータ分析と可視化に関する研究」

◆ 中條直也情報科学科教授
「IoTとエッジコンピューティングによるヘルスケアおよびFAシステムの研究」

◆ 西島義明機械学学科教授
「燃料多様化に対応した燃焼解析」
「噴霧燃焼解析によるエンジンの熱効率改善」

◆ 古橋秀夫電気学学科教授
「深紫外光を用いたウイルス対策機器の研究・開発」

◆ 福澤和久経営学学科講師
「自動車消費者潜在ニーズの調査および解析」

◆ 内藤克浩情報科学科准教授
「RFIDと画像認識技術を融合した次世代データ解析システムの研究開発」

◆ IoTサービス用シームレスプラットフォームシステムの基礎研究」
「セキュリティ通信プロトコルを使用するDagocoシステムの研究」

◆ 梶克彦情報科学科准教授
「FA機器の相互作用を考慮した保守管理と同期制御手法の検討」

293人が健脚競う 第41回愛工大駅伝大会

第41回愛工大駅伝大会は11月2日、八草キャンパス内コースに学生・教職員の67チーム293人(補欠11人含む)が参加して開かれました。オープンコース(4区間/約9.2km)、学生・教職員交流(8区間/約6.2km)、学友会企画(2区間/約3.1km)、選手権(4区間/約12km)の4部門に分かれ、和やかに健脚を競いました。3位までの成績は次の通りです。

- オープンコースの部**
優勝/太田 準優勝/遊タイム
3位/Enjoy
- 学生・教職員交流の部**
優勝/河路研マラソンクラブ2021
準優勝/チーム香川
3位/Team IZAWA
- 選手権の部**
優勝/野球部A 準優勝/競技スキー部
3位/野球部野手



オープンコースのスタート

N 堤幸彦監督が講演 情報科学科の 学生委員会自主企画

本学の客員教授も務めた映画監督・演出家の堤幸彦さんが10月28日、八草キャンパス1号館教室で講演しました。情報科学科の学生委員会自主企画で、堤監督はコロナ禍にあって作品づくりする意味などを学生たちに問いかけました。



堤監督は、「T R I C K」「20世紀少年」などの代表作や、新作「ファーストラヴ」などを振り返りながら、めったに聞けない制作の裏話を紹介。さらに、コロナ禍にあっても自主製作の映画や舞台、スマホで鑑賞する配信作品、YouTubeチャンネル開設などプラットフォームを超えて活動の場を広げており、「仕事がないからと萎れてはいられない。ホラー映画のように広がる

る恐怖心が不気味だったが、そんな中で能動的になれた」と語りました。

質疑応答の時間では、学生たちから「限られた作品の時間の中で、どうやって人の心を突き動かすのか」などと質問が寄せられました。これに対し、堤監督は「たとえば原作を読んだときの、自分にとつての初動の感動ポイントが織り込まれているか。今はスマホ一つあればプロがびつくりする面白いものを作れる時代。私たちを追い詰めて、追いつく勢いに期待したい」と、若者たちの奮起を促しました。

N 夏季オンライン 海外語学研修レポート

令和3年度の夏季海外語学研修は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して、オンラインで海外現地校のプログラムを受講する方法で実施しました。

夏季休暇期間中、オーストラリアとフィリピンの2種類のプログラムが別日程で企画され、学生たちは、他大学や他国の学習者と一緒のオンラインで受講しました。

コミュニケーション型の英会話を中心に、充実した内容のプログラムに取り組みました。受講生同士が交流するグループ授業などを通じ、コミュニケーションのための英語力を向上させました。近い将来、現地で行われる研修に参加する準備としても、有意義な体験となったようです。

次回も、ニュージーランドのプログラムを受講するオンライン研修を、2月28日～3月18日の日程で予定しています。

N 本学で豊田市自主防災 リーダー養成講座

地域防災のリーダーを養成する豊田市の自主防災リーダー養成講座が10月23日、本学八草キャンパスで開かれました。今年度は市と本学が初共催し、この日が2回連続講座の2回目。地域防災研究センターの学生防災研究会「学防(まなぼう)ラボ」のメンバーが補助員としてサポートしています。

2回目講座は10号館大講義室やA-1プラザが会場になり、「新洪水ハザードマップを使ったマイ・タイムラインの作成」について一般財団法人河川情報センターの鮎川一史氏、「家具固

定の演習」についてあいち防災リーダー会の早川澄男氏が、それぞれ講師を務め、学防ラボの7人がサポートしました。市内の自主防災会員を中心に61人が受講し、専用キットを使ったマイ・タイムラインの作成を学んだほか、家具固定のための下地探しなどの演習に取り組み、

N 学防ラボが豊田市畷部小で マイ・タイムラインの作成指導

学生を中心につくる地域防災研究センターの防災研究会「学防(まなぼう)ラボ」のメンバーが講師になって11月4日、水害リスクの高い地域にある豊田市立畷部小学校で、子どもたちにマイ・タイムラインの作成などを指導しました。

マイ・タイムラインとは、雨や風などの災害から身を守るため、家族構成や住環境に合わせ、時系列に沿ってあらかじめ行動を整理しておく、自分と家族の防災行動計画です。豊田市は風水害発生時の「逃げ遅れゼロ」に向け、作成を支援しています。今回は、市と本学の連携事業として初の小学生向けの作成支援となり、同小の4年生53人と5年生66人が参

防災力を高めました。



加しました。

学防ラボの学生たちが、4年生にマイ・タイムライン作成のためのチェックシート作成と体育館での避難所運営体験を指導し、5年生には実際にマイ・タイムラインを作成する授業を行いました。

小学生なりの避難行動を考えてもらおうと、学生側からさまざまなヒントを与え、真剣なまなざしを取り組む子どもたちからも活発に質問が寄せられました。





ものづくり ロボットキャンプ



瀬戸市の小学生がロボットについて楽しく学ぶワークショップ「ものづくりロボットキャンプ」が10月23、24日、同市の瀬戸蔵で開かれました。本学ロボット研究ミュージアムの西山禎泰客員講師が指導に当たり、抽選で4、6年生児童の20人が参加しました。

初開催で、テーマは「ギアの不思議を学ぼう!」。子供たちは簡単な工作キットでギアの仕組みを学んだあと、それぞれ工具を使い、レバーを動かすと上下左右に動くロボットアームを完成させました。会場では、本

学ロボットアート部の学生たち(2日間計12人)がボランティアで指導に協力しました。「ものづくりロボットキャンプ」は同市のふるさと応援寄与

ユビキタス情報処理研究室の学生らが アプリコンテスト最優秀賞

情報科学科のユビキタス情報処理研究室(梶克彦准教授)に所属する瀧沢陽介さん(4年)、松原紫音さん(3年)、日比大貴さん(大学院博士前期課程2年)が、情報処理学会・CDS/MBL/UBI研究会が主催する第9回学生スマートフォンアプリコンテストで最上位の最優秀賞を射止めました。

全国規模の学生限定コンテストに、今回は95件の応募がありました。「Ping x phone」と名付けた瀧沢さんたちのアプリは、スマホカメラを利用してスマホを取り付けた卓球ラケットを作り、新しいエンタメを作り出そうというものです。ユーザが実際に卓球台でボールを打ち合すと、加速度センサの値から空振り・ヒットの判定が行われ、今回はラリー回数をスマホ機能の音声でアナウンスする機能を実装しました。このほか

金事業の一環で、10月30、31日の日も予約でいっぱいになりました。新年1月には「2足で歩くロボットの謎探求!」のテーマで開催されました。

にもカメラや振動の機能を使って視覚や触覚に働きかけるエンタメが考えられるといえます。受賞にあたり、瀧沢さんたちは「趣味の一つを研究で始めたものが、ここまで大きくなると思いませんでした。実際に体験していただき良かった作品ですが、オンラインの発表でも面白さを上手く伝えられたのかなと感じました」と喜びを話しています。

卓球のラケットとスマホを融合したエンタメアプリケーション

ケース製作

センシング

フィードバック

スマホの機能を使った面白いエンタメ
喋ったりするよ!

スマホの加速度
ハイパスフィルタ
閾値
スイング ヒット

動画リンク
<https://www.nicovideo.jp/watch/sm39749119>

沖縄海洋ロボット コンペティションで 今年も高評価

沖縄県宜野湾市で11月5、7日に開催された「第7回沖縄海洋ロボットコンペティション」に本学の5チームが参加し、ROV (Remotely Operated Vehicle・遠隔操作型の無人潜水機)部門とフリースタイル部門で、それぞれ3位に入賞しました。

学生チャレンジプロジェクトである「B・U・V(生体模倣水中ロボット)プロジェクト」(指導教員・内田敬久機械学科教授)として、機械学科と電気学科の学部生・院生たちが参加しています。ROV部門には、バイオメテックス(生物の動きの構造や機能、生態特性を観



察、分析し、新技術の開発や物造りに活かす科学技術)の研究開発を目的にチャレンジし、機動性などの向上に努めた今年度、ワークショップ(プレゼンテーション)で1位と2位の高得点を獲得しました。

フリースタイル部門3位になったのは、知的計測制御研究室(古橋秀夫教授)に所属する4年生の金原充季さんで、今年が初参加。外骨格マンタ型ロボットでプレゼンテーション(オンライン)を行い、コンセプト、遊泳のデモンストレーション映像などで高い評価を受けました。



インターンシップ特集

進路実現に向けた
さまざまな支援

学生一人ひとりの希望する進路の実現を支援するのがキャリアセンターの役割です。就職活動、インターンシップ、資格取得のサポート拠点として、ガイダンス、企業研究会、資格講座、セミナーなどを開催しています。学科の就職担当の教員とも密に連携をとりながら、学生への支援を行っています。

学生がキャリアを考えるにあたっては、就職前に働くこと自分の姿を具体的に思い描くことが大切です。インターンシップは、社会を体験する貴重な機会であるとともに、就職後のミスマッチを減らすことが期待できます。今年度、初めての試みとして「インターンシップ業界研究フェア」を5月29日に開催しました。午前・午後各35社の計70社の出展があり、各企業ブースで直接学生に説明を行っていただきました。インターンシップは3年生が主に取り組みますが、1年生から受けられるようにしています。コロナ禍で当初の予定から変更しオンラインインターンシップが増えている現状ですが、可能な限り現場を経験することがキャリア

形成を進めるうえで大切と思います。今後も、企業のご協力を得ながら現場を体験できるインターンシップを増やしていきたいと思っています。



内田 敬久
キャリアセンター長

愛工大の就職率(2021年度実績就職率ランキング全国2位・実就職率97・4%)が依然として高いのは、長年にわたり企業との信頼関係を築いてきたことや、同窓生の皆様が各業界で活躍され、その道を切り拓いていただいた部分も大きく、我々大学の誇りでもあります。今後も、キャリアセンターの役割を見つめ、改善を図りながら学生の希望する進路の実現が果たせるようにしていきます。

愛工大のインターンシップ制度

愛工大ではインターンシップをキャリア教育の一環と位置付け、2週間のプログラムを中心に学生に紹介しています。2021年度夏季インターンシップでは約200社の企業に444名の学生を受け入れていただきました。

実施の流れ

- 企業 インターンシップ受入企業として愛工大ホームページより登録
- キャリアセンター 受入企業の情報を学生に公開
- 学生 希望企業へエントリー
- キャリアセンター 学生と面談・マッチング各企業へ受入要請
- 企業 学生 マッチング成立
- 学生 事前準備
- 企業 学生 インターンシップ開始
- 企業 学生 インターンシップ終了
- 学生 事後報告会の実施

インターンシップ体験談

両親など周囲の人からの話を聞き、希望する企業の現場を実際に見たいと思って参加しました。企業情報からだけではわからない雰囲気がわかり、自分の働く姿を想像もしてみるなど、就職を考える上で有意義な機会になりました。一生懸命取り組んでいれば誰かが見てくれているし、楽しんで仕事をすると学ぶことも多く充実すると感じました。



情報科学部 情報科学科
メディア情報専攻
伊藤 千尋さん

建設業の施工管理に興味があり、現場を体感してみたいと思ったことが参加のきっかけです。インターンシップを通じて、建設現場では安全面だけではなく、資材発注や作業スケジュール・品質管理など様々な面で配慮がされていると気づきました。また、簡単なことですが、情報がなければ調べ、疑問があれば聞くことが大事だと学びました。



工学部 土木工学科
防災土木工学専攻
友松 大地さん

愛名会企業研究会

学園の後援組織「愛名会」会員企業が出展する愛名会企業研究会が10月と11月、八草キャンパス 鉀徳館(体育館)などで開催されました。例年春に開催する愛名会企業展を、今年度も感染症対策として、令和4年3月開催と合わせ計3回(延べ7日間)の分散開催に変更しました。

会員企業の採用意欲は高く、3回合わせて過去最多の約800社が出展を予定しています。各日とも午前、午後の部に分かれ、11月は27、28両日で学部3年生、院1年生と愛知工業大学情報電子専門学校の学生を合わせた延べ1513人の学生たちが参加しました。開会式で内田敬久キャリアセンター長らが挨拶し、入場時間になるとスーツ姿の学生たちが、学生側8人までの制限を設けた各企業ブースに足を運びました。

2020年度は就職した愛工大生1291人のうち522人(約40%)が愛名会企業に入社を決めるなど、本学の高い就職率の基盤になっています。2023年卒の就活ルールは、3月会社説

明会、6月選考開始という従来から変わらないスケジュールとなりますが、採用活動プロセスの見直しは今後も続くと思われています。

就職活動解禁を直前に控え、キャリアセンターでは一丸となって学生の要望に応えるべく就職相談や添削指導、面接練習に対応しています。3月の愛名会企業研究会は業界や企業研究の集大成として「思い込みを捨てて視野を広げ、積極的に自分の目で見て聞いて企業とのマッチングを見極めよう」と学生たちに呼び掛けています。



11月に開催された愛名会企業研究会



オンラインで行われた遠藤守信教授の講演

N 遠藤守信教授が 高校1年生に向けて オンラインで講演

大学客員教授を務める遠藤守信・信州大学特別特任教授が11月25日、高校1年生に向けて講演しました。

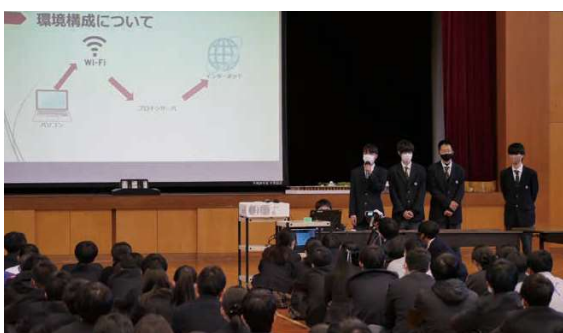
元学園総長の故後藤淳先生と同郷（長野県須坂市出身）で

ある遠藤教授は、高校に毎年足を運んで若い世代に思いを伝えてきました。コロナ禍のため昨年度の講演会は中止しましたが、今年度は遠藤教授と高校の放送室をZOOMで接続し、1年生の各教室に放送する形で講演しました。

遠藤教授は、温暖化がもたらす影響と人間が果たすべき責任について、故郷の森で見られる昆虫の愛すべき生態などを紹介しながら説明し、イノベーションの必要性を説きました。真剣に耳を傾ける生徒たちに向けて「学生時代の人的ネットワークは一生の宝。豊かな人脈を築き、世界一を目指すつもりで勉強してください。皆さん一人一人の素晴らしい将来を確信します」と、熱く語りかけました。

N 名電高校生が大学で 課題研究を発表

名電高校専門学科の3年生たちが12月11日、取り組んで



高徳館で行われた全体発表会

きた課題研究の成果を大学八草キャンパスで発表しました。高大接続事業の一環として、研究内容を大学の教員に専門的に審査・指導してもらう試みで、情報科学科、科学技術科の生徒合わせて138人が参加しました。

生徒たちが自主的に設定した研究テーマは35件。電気、応用化学、機械、土木工学、建築、情報科学の各学科に分かれ、1テーマにつき5分程度の

持ち時間で発表しました。審査に当たった教員から、実験の意図などについての鋭い質問が投げかけられました。

審査を経て優秀と評価された7グループによる全体発表会は、1月13日に高校高徳館で専門学科1〜3年生全員の前行われました。グループの生徒たちは、テーマの選定から今後の課題まで堂々と発表しました。

優秀7グループの発表テーマは次の通りです。

- ・「ドローンを用いた画像処理」(電気)
- ・「生分解性材料によるカゼインプラスチックの強度向上」(応用化学)
- ・「環境に優しい自動車の研究II」(機械)
- ・「鈴鹿サーキットの急こう配を登りきる省エネカー」(機械)
- ・「名古屋駅の新しいバスターミナルと公園施設」(土木工学)
- ・「小学校建築」(建築)
- ・「Open CVを用いたソフトウェアの作成」(情報科学)

N 「第65回 日本学生科学賞」入賞

全国の中学生と高校生の科学研究を対象とした「第65回日本学生科学賞」の中央審査で、中学3年の庄司紘都さんが読売新聞社賞に輝きました。庄司さんは「新型コロナウイルス感染者数分析」と題した研究で、新型コロナウイルスの感染者数が減少局面から増加に転じる兆しを、データ解析でいち早くつかめることを示しました。





からくり人形講演会

12月9日、高校1年生全員が「からくり人形講演会」に参加しました。からくり人形師の九代 玉屋庄兵衛さんを学校に招き、からくり人形の世界をDVDと実演を通じて学ぶことができました。茶運び人形や狙いを定めて矢を放つ人形、げたに乗って杭を上がっていく人形たちの間らしい動きを見ることができ、その動きに愛嬌を感じることも人形を動かす細かい行程を知ることができました。江戸時代から続く伝統技術である「からくり人形」を間近で見て学ぶことができ、日本古来の伝統文化に触れる良い機会になりました。



国際理解ワークショップ
ユニセフ教室

12月9日、中学2年生が、ユニセフ協会の職員さんからユニセフの活動内容や、世界中の子どもたちが置かれている厳しい状況などについて教えていただきました。飢餓や病気などで命を落とす子どもたち、紛争や児童労働などで教育の機会を奪われている子どもたちの姿を見て、貧困の原因はまさに教育の不在にあるのだと学びました。どの子どもたちも夢をあきらめず、明るい笑顔で積極的・自主的に行動している姿を見て、生徒たちも自分から行動することの大切さを感じてくれたことと思います。



専門学校で
交通安全講演会

専門学校で12月21日、1年生を対象にした交通安全講演会があり、豊田署交通課の近藤之哉警部補が事故防止の心構えを説きました。近藤警部補は、愛知県内の交通死亡事故の多さが例年全国上位である現状を踏まえ、



事故防止を呼び掛けた交通安全講演会

専門学校二ニュース

事故多発を招く愛知のクルマ社会の特徴にふれながら、事故防止のため知っておいてほしいポイントを説明しました。この中で、厳罰化された「ながら運転」への注意喚起をしたほか、高額賠償金の事例が増えている自賠責事故について「保険に絶対入っておいた方がいい」と呼びかけました。

編入学の
学生たちを激励

専門学校から今春、大学への編入学を予定する学生たちへの激励会が、1月20日に開かれました。

編入学志望の学生のうち、この日までに決定したのは24人。このうち愛知工業大学に21人が入り、編入学先は、情報科学科コンピュータシステム専攻が6人、同メディア情報専攻が2人、電気学科電気工学専攻が3人、同電子情報工学専攻が3人、機械学科機械工学

Vocational College NEWS

専攻が2人、同機械創造工学専攻が2人、経営学科経営情報システム専攻が3人となっています。他大学へは愛知工科大学、中部大学、近畿大学に各1人が編入学します。



激励会に出席した学生たち

クラブ活動報告

※学生の所属・学年は取材当時のものです。

大学●卓球部 全日学で宮本／田原が初優勝

10月28～31日に埼玉県所沢市民体育館で開催された第87回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部で、男子ダブルスに出場した本学卓球部の宮本春樹（4年）／田原彰悟（3年）が初優勝し、念願の学生個人タイトルを手に入れました。男子シングルスでも本学の高見真己（4年）が準優勝しました。

男子ダブルスの宮本／田原は、準決勝で明治大の宇田幸矢選手／戸上隼輔選手を3-1で下し、決勝でも明治大の西康洋選手／菅沼湧輝選手を3-1で下してうれしい初優勝を飾りました。本学のこの種目での優勝は、前回（令和元年）の



写真は、男子ダブルス初優勝の宮本（右）／田原



男子シングルス準優勝の高見（写真は、いずれもニッタクニュース提供）

木造勇人／田中佑汰に続いて2大会連続となります。一方、男子シングルス準々決勝で明治大の宇田選手を下した高見は、準決勝で本学の横谷晟（1年）との同士討ちを制し、決勝で明治大の戸上選手に3-4で惜敗しました。

宮本・田原・高見・横谷のほか、本学の選手たちは男子シングルスで田原、女子シングルスで岡田琴菜（1年）／横谷、女子ダブルスで中村光人（2年）／横谷、女子ダブルスで岡田／大川真実（1年）が、それぞれベスト4に入るなど好成績を収めました。

学園表彰

第87回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部で男子ダブルス優勝を飾った大学男子卓球部に対し、学園は学園表彰を行って選手らの努力をたたえました。愛名会からもお祝いが贈られました。

表彰は12月20日に八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が優勝ペアの宮本春樹選手・田原彰悟選手と鬼頭明総監督、森本耕平監督に賞状などを手渡しました。後藤理事長が「思いの強さが表れた優勝。さらに次を目指してほしい」と激励したのこたえ、宮本選手は「最後の学年に個人戦で結果を出せてうれしい」、田原選手は「また来年も優勝できるように頑張りたい」とお礼の言葉を述べました。森本監督も「エースダブルスが国際大会で不在の時、明治大の実力ペアを破った文句なしの優勝」と振り返り、今後ますますの活躍を誓いました。





高校●吹奏楽部

高校吹奏楽部の第57回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第57回定期演奏会が、1月8日夜と1月9日昼・夜の3部体制により、名古屋国際会議場センチュリーホールで感染防止対策を十分に講じて開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹顧問らの指揮による全4部構成。勇壮なステージドリルによる「スター・ウォーズ」のテーマなどで幕開け後、組曲「惑星」より木星、巨匠アルフレッド・リードの「アルメニアン・ダンス パート1」、第50回記念定期演奏会委嘱作品「ゴールドデン・ジュビレーション」、名電の十八番となった「Happy」、チームワークの象徴といえる手作りミュージカル「レ・ミゼラブル」メドレーなどを次々と披露しました。

コロナ禍が続く今年度も、部員たちは考えられる限りの工夫を重ねながら活動を続けました。初の九州の舞台で地元強豪校と出演した「プラスチックサウンドグッド」(11月28日・福岡サンパレスホー



感動を届けた第57回定期演奏会



手作りミュージカル「レ・ミゼラブル」

ル)や、北海道の旭川商業高校とのジョイントコンサート(12月24日・センチュリーホール)など、モットーとする「ぎずな」の輪を、さまざまな機会を通じて広げました。引退のステージとなった3年生をはじめ194人の部員たちは、共に過ごした日々の思い出を胸に刻み、会場の吹奏楽ファンに感動のサウンドを届けました。



高校●吹奏楽部

バンテリンドームで演奏披露

中ドラゴンズの2021年バンテリンドーム最終戦となった10月14日、高校吹奏楽部による演奏がドーム内106ピジョンの巨大画面で披露されました。

ドラゴンズと高校吹奏楽部は2020年と2021年、試合中のコラボ公演を行う予定でしたが、コロナ禍の影響で



バンテリンドームで演奏を披露した高校吹奏楽部

実現できませんでした。前年は淳和記念館ホールでの演奏を放映しましたが、今回はバンテリンドームのグラウンドで演奏したものを事前収録し、106ピジョンを通じて観客の皆さんにお届けしました。

部員総勢194人による「HAPPY」「サタデーナイト」「ディーブパーブルメドレー」の定番3曲、合わせて約8分間の演奏。軽快な振付に合わせて勇気と希望のメロディーを届け、スタンドから大きな拍手が贈られました。



高校●吹奏楽部 全日本
マーチングコンテスト

高校吹奏楽部は11月21日、大阪城ホールで開かれた第34回全日本マーチングコンテストに出場しました。高等学校以上の部に全国11支部から選ばれた25団体が出場した中、銀賞を受賞しました。



学園

クラブ表彰

学園は11月～1月にかけて、全国大会に出場の各クラブに対してクラブ表彰を行い、後藤泰之理事長が激励しました。愛名会や高校同窓会、高校PTAからもお祝いが贈られました。

●11月5日表彰

大学陸上競技部

秩父宮賜杯

全日本大学駅伝対校選手権大会



●11月17日表彰

高校吹奏楽部

第69回全日本吹奏楽コンクール

第34回全日本マーチングコンテスト



●12月6日表彰

大学フェンシング部

2021年度全日本学生フェンシング

選手権大会

第74回全日本フェンシング選手権大会

(団体戦)



●12月9日表彰

高校ボウリング部

文部科学大臣杯 第28回全国高等学校対抗

ボウリング選手権大会



●1月20日表彰

高校競技スキー部

第71回全国高等学校スキー大会

第34回全国高等学校選抜スキー大会

中学スキー部

第59回全国中学校スキー大会



大学卓球部 国際大会新シリーズ『WTT (World Table Tennis)』で準優勝ほか

2021年から始まった卓球の国際大会新シリーズ『WTT (World Table Tennis)』の大会「WTT・コンテンダー」



田中佑汰(右)／木造勇人



谷垣佑真(左)／篠塚大登
(写真は、いずれもWTT提供)

ラシユコ大会(11月1〜7日・スロベニア)で、大学男子卓球部の木造勇人(4年)／田中佑汰(3年)が男子ダブルス準優勝を果たしました。

また、「WTT・コンテンダー・ノヴォ・メスト」(11月8〜14日・スロベニア)でも、高校卓球部の谷垣佑真(3年)／篠塚大登(3年)が3位の成績を収めました。

大学フェンシング部 関西学生フェンシング選手権で男子大学対抗エペ優勝、フルール準優勝

令和3年度関西学生フェンシング選手権大会(10月13〜17日・京都府大山崎町体育館)で、本学フェンシング部が男子大学対抗エペ優勝、フルール準優勝の成績を収めました。さらにサーブルでも4位となり、3種目ともに11月17〜21日の東京の駒沢オリンピック公園でのインカレ(2021年度全日本学生フェンシング選手権大会)出場を決めました。

男子個人戦でも活躍し、宮地恭平(4年)がフルール準優勝。フルールは宮地を含む2選手、サーブル3選手、エペも3選手が、それぞれインカレ出場を決めました。

同時開催の関西学生フェンシング新入戦では、山代屋和史(1年)がエペ優勝、前田航希(2年)がフルール準優勝、伊東英汰(1年)がサーブル準優勝の成績を収めました。



男子大学対抗エペ優勝



男子フルール準優勝



新人戦エペ優勝の山代屋和史
男子フルール準優勝の宮地恭平

大学自動車部 eスポーツ大会『GT Young Challenge 2021』で自動車部が決勝進出

全日本学生自動車連盟に加入する14大学の自動車部がプレイステーション4専用ソフト『グランツーリスモSPORT』で競い合うeスポーツ大会『GT Young Challenge 2021』(朝日新聞社主催)の予選会が10月30日に鈴鹿サーキットで開催され、本学自動車部が決勝(12月19日に東京ミッドタウン日比谷のBASEQで開催)進出を果たしました。

全日本スーパーフォーミュラ選手権の最終戦『第20回JAF鈴鹿グランプリ』が開催されていた鈴鹿に集まった14大学は、3グループに分かれて予選レースを戦い



ました。各校自動車部が3人一組でチームを組み、A、B、Cの3グループに分かれ、各グループの上位3チームが決勝に進めるというルールです。

本学が属したCグループには、全5チームが参戦。レース開始直後は接戦で、一時は2位まで浮上したものの、ピットでタイヤを変更した後方のチームに追い上げられ、3位に落ちてしまいました。しかし、その後はペースを保ち続け、抜かれることはなく、3位を勝ち取ることができました。

大学卓球部 大学男子卓球部が年間総合1位でJITTLファイナル4に出場

唯一の学校チームとして日本卓球リーグ男子1部に加盟する男子卓球部は、本年度前期大会での全勝優勝に続き、後期大会(11月10〜14日・さいたま市)でも2位となり、年間総合第1位に輝きま

した。これを受けて上位4チームが年度チャンピオンの座を競うJITTLファイナル4(12月4〜5日・長野県千曲市)に進出し、準優勝の成績を収めました。

学生から募集の 看板デザイン決まる



後藤学長を囲んで、左から河瀬歌恋さん、津野晃多さん、木下愛美さん、古橋蒔奈さん

八草キャンパス最寄りのリノモ八草駅構内と愛知環状鉄道八草駅ホームに設置する大学常設看板のデザインを今年度も学生から募集し、審査の結果、情報科学科4年の津野晃多さんの作品が選ばれました。

看板は、愛工大のイメージキャラクター「鉄人28号」を使用して、キャッチコピーの「空想のワクワクが創造のチカラになる。」を視覚的に表現するものです。9点の力作が寄せられた中から、学生の投票と学内会議によって採用作を決めました。今年度は看板採用デザインのほかに学長賞と特別賞も設け、学長賞に情報科学科2年の木下愛美さん、特別賞に電気学科4年の河瀬歌恋さんと応用化学科3年の古橋蒔奈さんが、それぞれ選ばれました。

津野さんのデザインは、「空想のワクワク」を虹色の光と集中線、「創造のチカラ」を力強い眼差しとダイナミックなエフェクトで、それぞれ表現しています。「大学という環境で周囲からさまざまな刺激を受け、自分だけの力をつけてほしい」という願いを込め、「力強さ」を全面に押し出し、輝く光が印象的なデザインを制作しました。

津野さんデザインの看板は、4月1日から1年間設置されます。女子学生らしい感性が生きる学長賞・特別賞の3点も、大学をPRする場で活用されます。

看板デザイン
採用作品

情報科学科
津野晃多さん



作品に込めた思いやデザインの説明

「空想のワクワクが創造のチカラになる。」をテーマに、「空想のワクワク」を虹色の光と集中線、「創造のチカラ」を力強い眼差しとダイナミックなエフェクトでそれぞれ表現しています。「大学という環境で周囲から様々な刺激を受け、自分だけの力をつけて欲しい」という願いを込め、「力強さ」を全面に押し出した、輝く光が印象的なデザインを制作しました。



学長賞
情報科学科
木下愛美さん



特別賞
電気学科
河瀬歌恋さん



特別賞
応用化学科
古橋蒔奈さん

※学生の所属・学年は取材当時のものです。

愛知工業大学

DICOM02021で各賞



●優秀論文賞とヤングリサーチ賞
大学院経営情報科学研究科博士前期課程1年
大鐘勇輝さん(ユビキタス情報処理研究室)
「BLEビーコンを用いた車椅子使用者における活動量及び自走・介助の判定手法」で受賞

●優秀プレゼンテーション賞
大学院経営情報科学研究科博士前期課程1年
宮川信人さん(ユビキタス情報処理研究室)
「時空間フェンシングに基づくクラウドセンシングプラットフォームの構築」で受賞

愛知工業大学

建築設備士の日 記念学生コンペで優秀賞



建築学科3年
岡田大輝さん、**石井佑樹**さん

大学院工学研究科 大学院工学研究科
博士前期課程1年 博士後期課程2年
倉橋潤さん **津坂亮博**さん

「学びから生まれる持続性～小さな場所から広がり大きく育つSDGs～」で受賞

「Sustainable DC Grid City(SDG-City)～持続可能な直流の街 途上国への普及も見据えて～」で受賞

愛知工業大学

電気学会電力・エネルギー部門大会でYOC奨励賞



大学院工学研究科
博士前期課程1年
原田浩輔さん
(電力システム工学研究室)

「系統周波数低下時における風力発電の慣性応答の可能性評価」で受賞

愛知工業大学

秋季ばね及び復元力応用講演会で最優秀ポスター賞



大学院工学研究科
博士前期課程2年
宮本崇志さん
(機能材料研究室)

「超音波ショットピーニングによる傾斜機能TiNi形状記憶合金の機械的特性改善」で受賞

愛知工業大学

芸術科学会論文誌第19回論文賞



情報科学科 CGメディア研究室OB
水野慎士教授 **榎原拓実**さん

「ディスプレイ付きカート映像と床面映像が連動するプロジェクションマッピング」で受賞

愛知工業大学

情報処理学会のデジタルコンテンツクリエーション(DCC)研究会、コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学(CGVI)研究会、コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会の3研究会が主催した合同研究会で3賞同時受賞



大学院経営情報科学研究科
博士前期課程1年
安素羅さん
(CGメディア研究室)

「立体的映像を用いたオンライン参加型プロジェクションマッピングの開発」でDCC優秀賞、CGVI優秀研究発表賞、CGVI学生発表賞

愛知工業大学

「SIGGRAPH Asia 2021」に採録



大学院
経営情報科学研究科
博士前期課程2年
朝倉麻友さん
(CGメディア研究室)



大学院
経営情報科学研究科
博士前期課程1年
安素羅さん
(CGメディア研究室)

「手描き絵から生成したCG空間内での移動とインタラクションを実現する『不思議なスケッチブック・ザ・ライド』の開発」

「立体的映像を用いたオンライン参加型プロジェクションマッピングの開発」

愛知工業大学

電気設備学会全国大会優秀発表賞



大学院工学研究科博士前期課程2年
河合一誠さん
(電気エネルギー工学研究室)

「内灘風力発電所における2020年度の雷電流観測結果」で受賞

名電高等学校・名電中学校

愛知県私学協会表彰



●優良生徒表彰
水野舞優さん **佐々木香歩**さん
(高校普通科3年) (中学3年)

●計算技術検定試験1級合格
牧戸耀平さん **小西秀斗**さん
(高校情報技術科3年) (高校情報科学科3年)
石川勇太さん **前田美紀子**さん
(高校情報科学科3年) (高校普通科3年)

●実用英語技能検定準1級合格
杉野珠理緒さん
(高校普通科3年)

名電中学校

アイチータ杯2021で準優勝



2年のチーム
楠本大翔さん、
西野瑠翔さん、
徳谷嶺睿さん

レゴによるプログラミング走行の部とプレゼンテーションの部のそれぞれで準優勝

愛知工業大学	愛知工業大学名電高等学校	愛知工業大学名電中学校	愛知工業大学情報電子専門学校
 <p>豊田市八草、名古屋市自由ヶ丘にキャンパスをもち、3学部7学科14専攻と大学院2研究科を有する工科系総合大学です。「自由・愛・正義」の建学精神の下、1959年に開学して以来、学生のチャレンジ精神を全面的にバックアップし、ものづくり産業の第一線で活躍できる人材を育成しています。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>愛知工業大学を軸に国公立や難関私立大学を目指す普通科(特進・選抜コース、普通コース、スポーツコース)と、愛知工業大学各専攻と連携した「STEAM教育」を行う科学技術科・情報科学科があり、自分に合った学科・コースで学習します。最先端の学びにふれる授業に加え、ハイレベルな部活動も人間形成の一助になります。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>主要科目の時間をたっぷり取り、私立校ならではのバラエティ豊かな副教材を併用して、6年間をフルに使ったカリキュラムで学力を養成する「男女共学中高一貫校」です。学内にとどまらず、中高大の学園ネットワークを活かし、教科書の範囲を超えた授業で自然科学に対する興味関心を高めます。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>豊田市や地元企業からの要請に応え、優秀なコンピュータ・エンジニアを育成するために1992年に誕生しました。学生に資格と技術者としての実力、誇りを獲得してもらうため、専任の教授陣に加え、産業界のエキスパートを講師に迎えています。単位制を導入し、大学への編入学にも対応しています。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 

Information

愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
<p>卒業証書・学位授与式</p> <p>3月23日(水) 時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス 絆徳館(兼体育館)</p> <p>入学式</p> <p>4月5日(火) 時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス 絆徳館(兼体育館)</p> <p>最新の情報はホームページでご確認ください▶</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月1日(火) 時間/10:00~ 式場/喬徳館</p> <p>入学式</p> <p>4月6日(水) 時間/9:00~ 式場/喬徳館</p> <p>最新の情報はホームページで 又は、高校へお問い合わせください。</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月16日(水) 時間/10:00~ 式場/淳和記念館</p> <p>入学式</p> <p>4月6日(水) 時間/10:30~ 式場/淳和記念館</p> <p>最新の情報はホームページで 又は、中学校へお問い合わせください。</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月18日(金) 時間/10:00~</p> <p>入学式</p> <p>4月8日(金) 時間/10:00~</p> <p>体験入学 要申込</p> <p>最新の情報はホームページで ご確認ください▶</p>  

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、時間等変更になる場合があります。詳細については、各設置校へお問い合わせください。

Schedule 2022年3月~5月

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、スケジュールは変更になる場合があります。詳細については、各設置校へお問い合わせください。

	愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
3月	1日 愛名会企業研究会(~3日) 4日 【入試】後期日程M方式 7日 【入試】名電関係入試 23日 卒業証書・学位授与式	1日 卒業証書授与式 2日 学年末考査(~7日) 18日 終業式	1日 卒業証書授与式(高校) 2日 学年末考査(~5日中学)(~7日高校) 16日 卒業証書授与式(中学) 18日 終業式	6日 【入試】5次一般 12日 体験入学 18日 卒業式 22日 【入試】6次一般
4月	入学式	入学式 健康診断	入学式 3年修学旅行 遠足	入学式 オリエンテーション、健康診断 編入説明会
5月		中間考査 芸術鑑賞会	授業参観 中間考査	